

## 札幌で開催された 2006 年 NPAFC 調査計画調整会議

せき じろう 関 二郎 (さけますセンター さけます研究部長)

北太平洋溯河性魚類委員会(NPAFC)は、さけます類の調査船調査やシンポジウムなど科学活動に関する協力を検討するため、毎年春季に調査計画調整会議(RPCM)を開催している。2006年は、札幌の道庁赤レンガ庁舎を会場にして4月24-25日の両日にわたって行われた。RPCMには、日本からオブザーバーを含め21名、米国10名、カナダ2名、韓国3名およびロシア10名の研究者が出席し、ロシアのカルペンコ氏が議長を務めた。

### 調査計画調整会議

最初に全体会議が行われ、条約締結各国の2006年の航海計画及び国別調査計画が発表され、これに対する検討が行われた。その後科学分科会、資源評価作業部会、さけます標識作業部会、系群識別臨時作業部会、ベーリング海・アリューシャンさけます国際共同調査(BASIS)作業部会の各グループに分かれそれぞれの課題について検討を行い、その結果が全体会議に報告された。また、今年度で終了するBASISの成果についてのシンポジウムを2008年に米国で開催することで合意した。なお、2007年のRPCMはホノルルで行われる。

### ワークショップ

調査計画調整会議に引き続き4月26-27日に、NPAFC国際ワークショップ「さけます類幼魚の海洋における生残戦略」が北海道大学学術交流会館で開催された。このワークショップでは、5つのセッションがあり、最初に加盟5カ国の2001年以降に行われたさけ類幼魚期の研究が総括された。その後、サケ幼魚の季節的分布と移動、資源量と

生残機構、食物連鎖と成長変動、基礎生産と餌生物について20課題の口頭発表と、29課題のポスター発表が行われた。そして最後に、これらのトピックスに関してパネリストと参加者の中で活発な討論が行われた。ワークショップの要旨集はNPAFCのホームページ(<http://www.npafc.org>)から入手可能であり、本年4月には印刷物も出版される。



図1. RPCMが行われた道庁赤レンガ庁舎の会場。

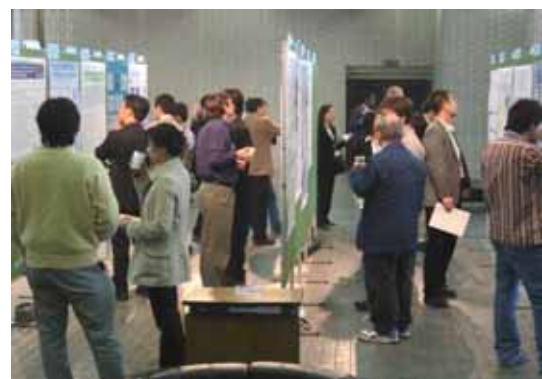


図2. 北海道大学で開催されたワークショップのポスター発表会場。



図3. NPAFCワークショップの参加者